2012年７月28日付けラジオ・オカピの記事によれば、「７月28日（土）、マシシの行政官は、北キブ州ゴマの北西約30キロにあるコンゴ民主共和国国軍ナビオンド基地の第410連隊第２大隊指揮官の離脱を発表した。同行政官によれば、金曜日、エリック・バデジ大佐と100人以上の兵士がナビオンドの北80キロにあるルバヤに向かった。この情報は、複数の情報源により確認された」。

2012年11月23日のＢＢＣの記事によれば、M23は、コンゴ民主共和国国軍に統合されていたＣＮＤＰの元構成員が、劣悪な環境と報酬及びＣＮＤＰのコンゴ民主共和国国軍への統合を導いた2009年３月23日のＣＮＤＰとコンゴ民主共和国の間の和平合意が完全に履行されないことに対し、抗議し始めた時に形成された。

2012年11月のＩＰＩＳ報告書によれば、M23は、コンゴ民主共和国東部地域を掌握するために、活発な軍事行動を行っている。2012年７月24日及び25日、M23とコンゴ民主共和国国軍は、コンゴ民主共和国東部のいくつかの町及び村の支配をめぐって戦った。2012年７月26日、ルマンガボにおいて、M23は、コンゴ民主共和国国軍を攻撃した。2012年11月17日、M23は、コンゴ民主共和国国軍をキブンバから追い出した。そして、2012年11月20日、M23は、ゴマを掌握した。

2012年11月専門家グループ報告書によれば、数人のM23の元戦闘員は、M23の指導者たちは、M23の児童兵として徴兵され、逃亡しようとした児童数十人を略式処刑したと述べた。

ヒューマン・ライツ・ウォッチ（ＨＲＷ）の2012年９月11日付け報告書によれば、ルワンダで強制的に徴兵された後逃亡したルワンダ人男性（18歳）は、ＨＲＷに対し、彼が所属していたM23の部隊から６月に逃亡しようとした16歳の少年の処刑を目撃したと述べた。この少年は捕えられ、他の新兵の前でM23の兵士によって撲殺された。この少年の殺害を指示したM23の指揮官は、この少年が殺害された理由の説明として、「彼は我々を見捨てた」と述べたとされる。また、この報告書は、目撃者たちは、少なくとも33人の新兵及び他のM23兵士が、逃亡を試みた際に略式処刑されたと述べたとしている。何人かは、他の新兵の前で、彼らが受けるかも知れない罰の見せしめとして、縛りあげられ、射殺された。若い新兵の一人は、ＨＲＷに対し、「我々がM23と行動していた際、彼らは、我々には選択肢があり、それはM23内にとどまるか、死ぬかだと言った。多くの人々が逃亡しようと試みた。何人かは見つかり、それはすなわち彼らの死を意味した。」と述べた。

38. ジャン・マリ・ルジェレロ・ルニガ
Jean-Marie Lugerero RUNIGA
（生年月日）おおよそ1960年
（指定の根拠）2012年７月９日、M23の指導者、スルタニ・マケンガが署名した文書は、ルニガをM23の政治部門の調整官とした。この文書によれば、ルニガの任命は、M23の大義を確実に明らかにする必要から行われた。

ルニガは、M23のウェブサイトによれば「議長」に指名されている。彼の指導者としての役割は、ルニガを「M23の指導者」としている2012年11月専門家グループ報告書によって傍証される。

2012年12月13日付けＡＰ通信の記事によれば、ルニガはＡＰ通信に対し、コンゴ民主共和国政府に提出する予定だという要求のリストを見せた。その要求の中には、カビラ大統領の辞任と国民議会の解散も含まれている。ルニガは、機会が与えられれば、M23は再度ゴマを掌握することができると述べた。「そして今の時点では我々は撤退しない」とルニガはＡＰ通信に述べた。また、同人は、交渉の前提条件としてM23の政治部門はゴマの支配を再開すべきだと述べた。「カンパラにいる我々のメンバーは我々を代表すると思う。時がくれば自分もそこに行くだろう。状況が整うのを待っており、カビラが行く時には自分もそこにいよう」とルニガは述べた。

2012年11月26日付けフィガロ紙の記事によれば、ルニガは、2012年11月24日に、カビラ・コンゴ民主共和国大統領と協議を始めるために会合していた。フィガロ紙の別のインタビューでは、ルニガは、「M23は、2009年３月23日合意が尊重されていないことに抗議するため離脱した元コンゴ民主共和国国軍兵士を主として構成されている」と述べた。彼は、「M23の兵士は、武器を持って軍を離れた離脱者である。最近、我々は、ブナガナの軍事基地から多くの装備を回収した。現在のところ、これにより我々は日々領土を獲得することができ、コンゴ民主共和国国軍のすべての攻撃を退けることができる・・・我々の革命はコンゴのものであり、コンゴ人により、コンゴの民衆のために行われている。」と付け加えた。

2012年11月22日付けロイター通信の記事によれば、ルニガは、M23の勢力がコンゴ民主共和国国軍からのコンゴ民主共和国人の反乱兵により増強されたことを受け、M23はゴマにとどまる能力があると述べた。「最初に我々は統率された軍隊を持っており、また我々にはコンゴ民主共和国国軍から我々に加わった兵士もいる。彼らは我々の兄弟である。彼らは再訓練され、我々は彼らと協働するだろう。」

2012年11月27日付けガーディアン紙の記事によれば、ルニガは、M23は和平交渉のためにゴマを離れるようにという大湖地域諸国会議の地域の指導者の要求に従うことを拒否するだろうと示した。代わりに、ルニガは、M23のゴマからの撤退は、交渉の前提条件ではなく結果だと述べた。

2012年11月15日付け専門家グループ最終報告書によれば、ルニガは、2012年７月29日にウガンダのカンパラを訪問した代表団を率いており、大湖地域諸国会議で予定されていた交渉の前にM23の21項目からなる議題案を仕上げた。

2012年11月23日付けＢＢＣの記事によれば、M23は、コンゴ民主共和国国軍に統合されていたＣＮＤＰの元構成員が、劣悪な環境と報酬、及びＣＮＤＰのコンゴ民主共和国国軍への統合を導いた2009年３月23日のＣＮＤＰとコンゴ民主共和国の間の和平合意が完全に履行されないことに対し、抗議し始めた時に形成された。

2012年11月のＩＰＩＳ報告書によれば、M23は、コンゴ民主共和国東部地域を掌握するために、活発な軍事行動を行っている。2012年７月24日及び25日、M23とコンゴ民主共和国国軍は、コンゴ民主共和国東部のいくつかの町及び村の支配をめぐって戦った。2012年７月26日、ルマンガボにおいて、M23はコンゴ民主共和国国軍を攻撃した。2012年11月17日、M23は、キブンバからコンゴ民主共和国国軍を追い出した。そして2012年11月20日、M23はゴマを掌握した。

2012年11月の専門家グループ報告書によれば、M23の指導者たちは、M23の児童兵として徴兵され逃亡しようとした児童数十人を略式処刑したと数人のM23の元戦闘員は述べた。

ヒューマン・ライツ・ウォッチ（ＨＲＷ）の2012年９月11日付け報告書によれば、ルワンダで強制的に徴兵された後逃亡したルワンダ人男性（18歳）は、ＨＲＷに対し、彼が所属していたM23の部隊から６月に逃亡しようとした16歳の少年の処刑を目撃したと述べた。この少年は捕えられ、他の新兵の前でM23の兵士によって撲殺された。この少年の殺害を指示したM23の指揮官は、この少年が殺害された理由の説明として、「彼は我々を見捨てた」と述べたとされる。また、この報告書は、目撃者たちは、少なくとも33人の新兵及び他のM23兵士が、逃亡を試みた際に略式処刑されたと述べたとしている。何人かは、他の新兵の前で、彼らが受けるかも知れない罰の見せしめとして、縛りあげられ、射殺された。若い新兵の一人は、ＨＲＷに対し、「我々がM23と行動していた際、彼らは、我々には選択肢があり、それはM23内にとどまるか、死ぬかだと言った。多くの人々が逃亡しようと試みた。何人かは見つかり、それはすなわち彼らの死を意味した。」と述べた。

39. ルワンダ解放民主勢力（ＦＤＬＲ）
Forces Democratiques De Liberation Du Rwanda （ＦＤＬＲ）
（別名）ルワンダ解放民主勢力（Forces Democratiques De Liberation Du Rwanda）、ＦＤＬＲ、アバクングズィ戦闘勢力（Force Combattante Abacunguzi）、ＦＯＣＡ、ルワンダ解放戦闘勢力（Combatant Force for the Liberation of Rwanda）
（旅券、特定情報）メールアドレス：Fdlr@fmx.de；fldrrse@yahoo.fr；fdlr@gmx.net、所在地：コンゴ民主共和国北キブ州及び南キブ州（North and South Kivu, DRC）